

所属・資格 教育学科・教授

申請者氏名 小野 雅章

研究課題		戦前期日本の学校儀式の成立と性格の変容に関する研究—学校観との関係を中心に
報告の概要	研究目的 および 研究概要	本研究は、戦前日本の学校教育における学校儀式の性格の変容過程を、学校観の推移という観点から考察するものである。これにより、戦前日本の学校儀式のほぼすべての次第が三大節学校儀式に準ずるものになり、天皇制教化のための「装置」になったのかを究明することにある。この「問い」を明らかにするために、関連法令、教育関係審議会の議事録、学校所蔵史料などを渉猟することにより明らかにするものである。本研究は、戦前日本の学校儀式の性格の変化について、時期区分を意識しながら明らかにしようとする一つの試みと位置付けることができる。
	研究の 結果	本研究では、戦前日本の学校観の変容過程を、①1870年代から1880年代の維新の変革における教育近代化にむけての試行錯誤の時期、②1890年代の天皇制公教育の成立の時期、③1900年～1910年代の天皇制公教育の確立期、④1920年代～1930年代初期までの天皇制公教育の展開期、そして⑤1930年代中頃以降の国体明徴運動期以降のファシズム的天皇制公教育の推進期に分けて、それぞれの時期の学校儀式・行事の変容過程を、公文書史料、教育実践関係の史料、そして、教育関係雑誌、新聞などにより分析した。 その結果、①の時期には、学校儀式・行事はそれぞれの教育目的により多様な内容であったが、②の時期、特に教育勅語発布以降には学校儀式が天皇制公教育の推進のための有効な「装置」としての認識が強まり、③の時期、小学校令施行規則（1900年）により三大節学校儀式が定式化し、④の時期、これをもとに三大節以外の学校儀式（卒業式・入学式）などもこれに準用されるようになり、⑤の時期になると、これがほぼ強制されるようになったことを明らかにした。
	研究の 考察・ 反省	【研究の考察】 戦前日本の祝祭日学校儀式は、近代立憲君主制国家における国民養成のための重要な「装置」として考案されたものであるが、その歴史は卒業式や開校式・開講式に比べると浅いものである。しかし、教育勅語の発布とともに最も重要な儀式と認識され、それがすべての学校儀式に重用されるようになったところに、学校儀式の重要な意味がある。 【今後の課題】 戦前期を通じて形成された学校儀式が、戦後日本の教育において、どのように継承され、それが現在の教育にどう影響しているのか、この点の考察が今後の課題として残されている。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>【研究発表】 近現代天皇制研究会（京都大学人文科学研究所） 「近現代天皇制と学校儀式・行事の関係史概観：研究の到達点と今後の課題」2024年10月12日 於京都大学人文科学研究所。</p> <p>【研究成果物】 「近現代天皇制と学校儀式・行事：研究の到達点と今後の課題」『日本教育史学会紀要』第14号、 1～17ページ、2024年5月、日本教育史学会。</p>	